

旅どころピックアップ

数ある見どころの中から「五智国分寺」周辺をピックアップしました。

【五智国分寺と親鸞聖人の旅】

五智如来を安置する国分寺のあたりをまちの人たちは「五智さん」と親しみをこめて呼びます。また親鸞聖人の旧跡でもあるこの地は、中世の面影を色濃く残しています。

さて、この旅を五智国分寺から始めましょう。現在の位置にある国分寺は、永禄5年(1562)に上杉謙信公が再興したものといわれ、それ以前の国分寺についてはなぞのままです。

まず①山門をくぐります。天保6年(1835)に建立されたもので、立木の姿のままの柱はあまり例がありません。門に立って目の前に見える②本堂は昭和63年に焼失し、10年の歳月をかけて総檜木造り、鎌倉時代の様式によって再建したもので、工法も「ちょうな」や「やりがんな」などの古代からの道具が使われました。

③三重塔は安政3年(1856)に着工したものの今だに未完成のままです。新潟県に三つある塔の一つで県の文化財に指定されています。

④経蔵(市文化財)は元禄6年(1693)の棟札があり、市内最古の建物。経蔵土台の緑がかつた石は、北前船で運ばれて来た笏谷石です。並んで建っているのは、白山神社の神輿のお旅所。5月5日、境内で神仏習合の祭りが行われます。

梵鐘は世界で唯一のステンレス製。舌越調の音が響きます(鐘楼は仮設)。

本堂の右手は親鸞聖人の配所竹之内草庵跡。聖人が自ら姿を写して刻んだという⑤聖人像(市文化財)が安置されています。

裏門を出ると聖人が姿を写したという鏡ヶ池。左へ行けばやがて⑥親鸞聖人上陸の地です。

承元元年(1207)専修念仏禁止により、聖人は越後国府へ流罪となり、この居多ヶ浜に上陸したと伝えられています。聖人像を安置する見真堂や親鸞聖人の七不思議の一つ片葉の葎などがあり、展望台から日本海の夕日を眺めれば、聖人の昔を偲ぶことができます。

上陸の地を後にして南へ坂を下ると、代々領主の厚い保護を受けた越後一の宮⑦居多神社です。室町時代の木造狛犬は市文化財。

その先の山上には白山神社、上杉謙信公奉納の軍配(市文化財)がある愛宕神社があります。

池をめぐって通りへ出ると、⑧本願寺国府別院です。親鸞聖人が竹之内草庵から移り住んで妻惠信尼と暮らした竹ヶ前草庵のあった所。

本尊阿弥陀如来と聖人の像が並んで安置されている本堂(市文化財)は、文化2年(1805)創建。内陣の彩色や彫刻は目を見はせませす。

⑨光源寺は建暦元年(1211)聖人の弟子最信によって開かれたと伝えられ、罪を許された聖人が描いたという自画像「御満悦の御影」を安置して国府御影堂、国府御坊と呼ばれてきました。御影堂と本堂が併設されているのは聖人の旧跡ならではのものです。

光源寺の裏の道を国分寺方向へしばらく歩くと、聖人が使ったと伝えられる“養爺清水”が今も湧き出ています。

(※徒歩 約1.5時間 移動距離 約2.5km)



①五智国分寺 山門 ②五智国分寺 本堂 ③五智国分寺 三重塔



④五智国分寺 経蔵 ⑤伝親鸞聖人坐像 ⑥親鸞聖人上陸の地



⑦居多神社 ⑧国府別院 ⑨光源寺

《ミニ人物伝》 親鸞聖人

浄土真宗の開祖。承元元年(1207)専修念仏禁止により、35歳で越後国府へ流罪となりました。流人として5年、その後2年間を妻の惠信尼とともにこの五智周辺で過ごします。聖人の著作に「海」という言葉が多いのは、日本海を見つめた日々が影響しているといわれています。建保2年(1214)常陸国へ旅立っていきました。弘長2年(1262)90歳で京都に没しました。



おすすめさんぽコース

親鸞聖人ゆかりの旅

親鸞聖人上陸の地→居多神社→五智国分寺・竹之内草庵→光源寺→国府別院→(車:10分)→浄興寺(高田寺町)→(車:20分)→糸しの里記念館(板倉区)(徒歩・車:4時間)

謙信公ゆかりの旅

五智国分寺→居多神社→浜善光寺(十念寺)→府中八幡宮→御館跡(御館乱の跡)→ものがたり館・春日山城史跡広場→春日神社→林泉寺→春日山神社→春日山城跡(徒歩・車:4時間)



直江津さんぽモデルコース

三・八朝市・親鸞聖人上陸の地コース

美しい海岸線を眺めながらの散策コース。港町特有の風情と人情に触れられる伝統の朝市も魅力。

安寿と厨子王供養塔→ライオン像のある館→三・八の市→琴平神社→赤い蠟燭と人魚像→水族博物館うみがたり→親鸞聖人上陸の地→居多神社→五智国分寺

(所要時間/3時間 移動距離/約4km)

福島城跡・府中八幡宮・五智国分寺コース

港町の物語を堪能できる散策コース。古来語り継がれた逸話や交流文化の薫りを感じながら歩く。

直江津橋→福島城跡→平和記念公園→安寿と厨子王供養塔→琴平神社→ライオン像のある館→観音寺→水族博物館うみがたり→府中八幡宮→十念寺→親鸞聖人上陸の地→居多神社→五智国分寺

(所要時間/3時間50分 移動距離/約5km)

※福島城跡は古城小学校敷地内となりますので、見学の際は事前に同校(TEL.025-543-2167)へ見学希望の旨をご連絡ください。

府中八幡宮・五智国分寺・国府別院コース

いにしへの越後国府をゆったりと歩く。親鸞聖人や謙信公ゆかりの地などを散策するコース。

府中八幡宮→水族博物館うみがたり→十念寺→親鸞聖人上陸の地→居多神社→五智国分寺→国府別院→御館跡

(所要時間/3時間10分 移動距離/約4.5km)

観光のお問い合わせ先

- 上越市観光交流推進課 TEL.025(526)5111
- (公社)上越観光コンベンション協会 TEL.025(543)2777
- 上越妙高駅観光案内所 TEL.025(512)6016
- 高田駅前観光案内所 TEL.025(521)5140
- 直江津駅前観光案内所 TEL.025(539)6515

2019.6発行



明治以降は海陸交通の要衝として、北海道や大陸からの輸出入港として発展してきました。

明治以降は海陸交通の要衝として、北海道や大陸からの輸出入港として発展してきました。

直江津地区は、奈良時代から「水門」と呼ばれ、港のまちとして知られていました。国府・国分寺の地、中世には越後府中の地として一國一寺の安国寺、都にもその名を知られた至徳寺などがあり、至徳寺を指所として崇拝などの文人や高僧が多く訪れ「越後府中文化」の華が開きました。その頃の物語には「直江の津」の名前も、東西日本の接点の都市として描かれ、上杉謙信公がこの地を治めた時代に春日山城下と併せて、京都に次ぐ人口を持つ大都市であったといわれています。

直江津物語



港町、直江津さんぽ



日本遺産 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ~北前船寄港地・船主集落~

